

2008年(平成20年)5月9日(金曜日)

東京医科歯科大学の玉村啓和教授と京都大学の藤井信孝教授らは、がんの転移を抑制するペプチドを作ることに成功した。乳がんや白血病など二十一〜三十種類のがんで見つかったペプチドをもとに人工合成した。免疫不全のマウスを使った実験で、抑制効果を確認した。さらに最適な構造を追究する。

様々な種類のがんで存在するCXCR4の濃度の多い場所に転移しやすいことが指摘されており、転移抑制の構造を人工合成して、ペプチドカギとみられている。

がん転移抑えるペプチド

「T140」を作った。遺伝子操作で免疫不全にしたマウスに、がん細胞表面などに結合する。がんはCXCR4と結合する。がんはCXCR4と結合する。がんはCXCR4と結合する。

東京医科歯科大と京大 人工合成に成功

調べた。マウスにポンプを埋め込み、数時間かけてペプチドを投与した。未投与だとがんが肺全体の約四〇%を占めたが、投与すると二五%に抑えられた。

T140のもととなったペプチドは関節リウマチでも確認されている。今後は関節リウマチへの治療効果などもマウスの実験で確かめる。